2010.10.30（Sat）　中部大学名古屋キャンパス

名古屋地理学会　秋のシンポジウム

瀬戸

陶磁器産地の産業資源を生かした街づくり

常滑

愛知県では昔から陶磁器が生産されてきました．現在，消費の低迷や輸入品の増大などにより，産地の生産額は以前に比べると大きく落ち込んでいます．しかしその一方，陶磁器の生産現場や産業遺蹟を観光対象として見て回る動きが盛んになってきており，陶磁器産地はこれまでとは違う役割を担うようになりました．

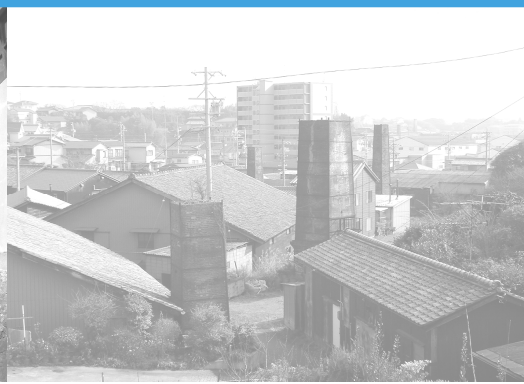
そこで，今回のシンポジウムでは，「陶磁器産地の産業資源を生かした街づくり」の試みについて，その実践と理論について考えてみたいと思います．大都市圏に比較的近い陶磁器の地場産業地域が生き残っていく方策として，「産業の歴史的蓄積を現代の生活に活かす」，「地域における産業景観の意義を見直す」，「伝統に新風を吹き込み，新たな製品・サービスを創出する」などの方向性が考えられます．

今回のシンポジウムでは，日本を代表する六古窯産地でもある常滑焼と瀬戸焼の地場産業地域における「散歩道づくり」の試みを中心に，産業資源を活かした生活環境整備，産業景観形成，街づくりについて話し合いをしたいと考えております．

日時 ： **2010 年 10 月 30 日(土)　13:30～16:30**

会場 ： **中部大学 名古屋キャンパス 6 階 610 教室**

主催 ： **名古屋地理学会**

＊ **参加費無料, 事前申し込み必要なし．（どなたでも自由に参加できます．）**

- 趣旨説明・コーディネーター： **林　　上**（中部大学人文学部教授）
- パネリストと講演題目
  - **榊原　進**（常滑市環境経済部商工観光課長）　**「常滑焼を生かした観光まちづくり」**
  - **水野教雄**（元瀬戸陶芸協会会長・瀬戸市無形文化財保持者）　**「瀬戸・洞町窯垣の小径の取り組み」**
  - **市田　圭**（名古屋大学環境学研究科博士後期課程院生）　**「産業景観を活かしたまちづくりにおける景観整備の意義」**